

## 令和3年度京丹後市観光立市推進会議 会議録

- 1 開催日時 令和4年2月22日（火）午前10時～
- 2 開催場所 京丹後市役所峰山庁舎 205会議室
- 3 出席者等 坂上英彦会長、浅田高史委員、和田正人委員、池田香代子委員、丸田智代子委員、松本進一朗委員、安田智幸委員、上田美知子委員、松尾信介委員、前田尚委員、杉岡亮汰委員、飯島徹委員、安達幸三委員、森本真至委員、村上章委員

事務局	(一社)京都府北部地域連携都市圏振興社京丹後地域本部	木村嘉充
	(一社)京都府北部地域連携都市圏振興社京丹後地域本部	木本貴文
	京丹後市商工観光部長	高橋尚義
	〃 商工観光部観光振興課	大江裕、下戸裕子、山添力也、 一ノ尾貴裕、林有彩、福崎智子
市関係部局	市長公室政策企画課	松本晃治
	農林水産部農業振興課	松下幸弘
	商工観光部商工振興課	島貫博志
	教育委員会生涯学習課	坪倉武広

- 4 議題及び会費の公開又は非公開の別 **【公開】**
  - (1) 令和2年度（令和3年度含む）の年次報告について
    - ①R2年の観光入込客数等の状況
    - ②R2～3年度の戦略プロジェクトの事業実施状況
    - ③R2～3年度地域別プロジェクトの事業実施状況
    - ④前回委員会でのご意見に対する対応状況
  - (2) 令和3年度における各種取組状況等について
  - (3) withコロナ、afterコロナを見据えたディスカッション
- 5 傍聴人の数 なし

### 6 発言の内容（要旨）

#### 1 開会挨拶

<高橋商工観光部長>

ただ今から令和3年度京丹後市観光立市推進会議を開催させていただきます。本日司会をさせていただきます、商工観光部長の高橋と申します。どうぞよろしく願いいたします。

本日の会議ですが、新型コロナウイルス感染防止の対策を取りながら開催をさせていただくということで、会場にお越しいただいている委員様が9名、リモートで6名の委員の方にご参加いただいて、また会場ですけれども、途中、換気のために適宜窓を開けさせていただきますことをご了承いただければと思います。

本日の会議ですけれども、令和2年度、それから3年度の事業進捗の状況につきまして、ご審議をお願いしたいと思います。また来年度、現在の観光振興計画の改定も予定をしておりますが、そのスケジュールについても事務局としての考え方を少しお伝えさせていただきたいと考えています。

本日の出席は、委員長も含めまして委員定数の半数以上に達しておりますので、京丹後市観光立市推進条例第28条第2項によりまして、会議が成立をしておりますことをご報告させていただきます。

ご出席の委員のご紹介ですが、失礼ながら時間の都合上お手元の御出席者名簿でご確認をいただきたいと存じます。所属団体の改正によりまして、本日より新たに委員に御就任頂きました8名の方につきまして、委嘱通知書を失礼ながら机の上に置かせていただいております。またズーム参加の方は、後日送付ということでご了承いただきたいと思います。ではこの8名の方ですけれども、一言ずつお言葉をいただければと思いますのでマイクをお持ちさせていただきますと思います

※新規委員8名、順番に自己紹介

<高橋商工観光部長>

それでは開会にあたりまして、坂上会長よりご挨拶を頂戴したいと思います。

<会長>

早朝より足元の悪い中、大阪から3時間以上かけて車でやって参りました。観光客の人は大変ではないかと感じました。今日のご参集いただきありがとうございます。

コロナ禍で、実は心の時代がやってきているのではないかということ、これは世界的な大きな流れがございます。物質的な豊かさではなく、精神的な豊かさの方がコロナにおいては重要ではないかというのがその大きな根拠でございます。SDGsをはじめ色々なものが、経済だけではなく文化の重要性というもの、これから世界が追い求めていこうというふうな流れになっているのではないかなと感じております。

特にこの丹後においては、地域の文化や歴史、そういったものを再度見直す機会が大切ではないかと思えます。観光に係る皆様方におかれましては、大変厳しい環境の中、地域の文化を活かして観光産業を振興されているということに、まず私は感謝をしたいと思います。これからの時代に非常に重要な産業であると考えておりますし、地域にとっても非常に大切な資源かと思えます。

今日は、年に1回の会議でございますので、忌憚のないご意見を頂戴して、実りある内容にしたいと思います。ご協力よろしくお願いたします。

<高橋商工観光部長>

はい、ありがとうございます。それでは続きまして、中山市長が開会にあたりご挨拶を申し上げます。

<市長>

皆さん、こんにちは。ご紹介いただきました中山でございます。今日はこの観光立市推進会議ということで、会長はじめ会員の皆様には、遠路あるいはお寒い中ではありますが、お集

まりをいただきました。またズームでも多くの皆様にお時間を割いていただいて、ご参加を頂いております。本当に皆様どうもありがとうございます。

コロナ禍に配慮しながらの設定でもあるわけですし、お越しくださる中で色んなご配慮があったかと思いますが、そもそもこの2年間、コロナの中で一番打撃を受けている業界業種が、飲食店の皆さんとともに、観光の皆さんであるわけでございます。

そんな中で我々の町は観光立市ということで、観光が産業の中の大きな中心、中心の一つとなって町を支え、牽引してくださっているわけでありまして、そういう意味で、観光がコロナの中で影響を受けることは町の維持発展の上で、持つ意味の大きさというのは他の町以上に大きなものがあるわけでございます。そんな中で、共に行政も精一杯頑張りますが、何より当事者の観光事業者の皆さんが、本当に死に物狂いで色んな状況の中で、色んな克服をし、この事業をそして町を支えてくださっておりますことを心から深い感謝をさせていただきたいと思っております。いつもどうもありがとうございます。

今もなお蔓延防止で、京都府下感染力が強いオミクロン株で我々の町もなかなか抜けきれない状況で、なんとか早いタイミングで抜け出していきたいですが、観光立市の中心である観光事業者の皆さんが踏ん張り切ってください、益々「ウィズコロナ」「アフターコロナ」に向けて元気になっていただき、コロナ禍という災いの「禍」と書くのですけれど、ぜひ果実の「果」に変えていただくような、「アフターコロナ」のあり様を、今のうちからご準備してくださっているのを、我々も精一杯お支えさせて頂き、そして地域の皆さんの生活とともに、地域の発展を引き連れて頂けるように思いながら日々おるところでございます。

今、コロナによってデジタル化の社会実装が一層進んだということもありますし、また坂上会長の話にもありましたように、色んな社会的な価値観の変化というものもあるのではないかと、心の部分もそうだと思いますし、あと自然環境あるいは、「命」「健康」「長寿」といったものへ向かう思考や、そういったことがより一層社会の中で変化が起きている、その中で我々はそれを活かせる地域、そういった宝の原石が溢れている地域だと思っていますので、それらを活かせるような観光を、これから事業者の皆さんが担って頂く上で精一杯、我々としてお支えさせていただきたいと思っております。経済はもとより観光は光を見るわけでありまして。その光に、我々住民自身もしっかり共有しながら、内外の皆さんと交流が始まって、本当の豊かさを作っていくような、そんな地域になっていけばというふうに願っております。色んなことで精一杯、今こそ行政がお支えする時であり、この一年、精一杯させていただきながら、一緒になって次の時代、明るい未来を作ってまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

<高橋商工観光部長>

ありがとうございました。それでは、中山市長は他の公務がございますので、ここで退席をさせていただきます。それでは引き続き進めさせていただきます。

では、本日の会議資料の確認をさせていただきます。たくさん会議資料がございます、全部で11点あります。まず次第です。それから出席者名簿、その資料の右肩に1から8番までございます。また資料6につきましては資料6-1、6-2ということでございますので、ご確認頂けたらと思っております。配布漏れ等がございましたら、お申し出を頂けたらと思っております。参加の皆さん方、ご資料の方は揃っておりますでしょうか。

それでは会議の方に入らせていただきます。条例第28条の規定に基づきまして、ここからは坂上会長に議長をお世話になりまして、議事を進めていただきたいと思います。それでは坂上会長、よろしくお願いいたします。

## 2 議事

### (1) 令和2年度（令和3年度含む）の年次報告について

<会長>

では、議長を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。着座にて進めさせていただきます。ズームでご参加頂いている方々、聞こえていますでしょうか。全員大丈夫なこととあります。会議に入ります前に、会議録の確認者を、私の方からご指名をさせていただきます。丸田さんと上田さんをお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。では皆さんのスムーズな進行にご協力をお願いいたします。

では議事に入らせていただきます。最初に議事の(1)、令和2年度、令和3年度を含む年次報告についてです。すでにご案内のとおり資料①から④につきましては、説明を省略させていただきます。この件についてご意見を頂きたいと思いますが、何かご意見、ご質問はございますでしょうか。

議事(1)の質疑については、事前に見ていただいているかと思っております。よろしいでしょうか。特にご意見があればお願いしたいと思います。ズームの参加の方々もいかがでしょうか。大丈夫でしょうか。ではおられないようですので、またお気づきがありましたら、後ほどご発言いただいても結構かと思っております。最後に全体を通してのご意見をいただく機会もありますので、その時をお願いしたいと思います。

次の議題に入らせていただきます。議事(2)でございます。令和3年度における各種取組状況等についてです。これについては事務局からご説明をお願いします。

### (2) 令和3年度における各種取組状況等について

<大江観光振興課長>

令和3年度に行って参りました事業は諸々ございますが、行政側としまして、代表的なものを少しご紹介させていただきます。その後、観光公社の方からも説明をお願いするという流れでご説明申し上げます。

画面共有をさせていただきます。こちらの表紙にございますように、活イカの実証事業とチャレンジ事業補助金、グリーンベルト、この3つをご紹介させていただきます。

まず初めに、市では、「旬でもてなす食の観光推進事業」を進めていますが、その一環として、活イカの市内流通実証事業を行いました。5月から7月、春から初夏にかけて、白イカが水揚げされます。それを生きたまま市内で流通させようという取組です。土日は漁協が閉まっていますが、お宿の方で、一番需要が高くなるのは、土日になりますので、道の駅てんきてんき丹後に水槽を置きまして、実際にそこで生きたままのイカが保管できるのかどうかについても実証したものでございます。

実施期間は、6月3日から7月15日、43日間でございます。この事業に参加されましたお宿さんは28者、飲食店は5者ということで、33軒の皆様にご提供いただきました。期間中に獲れたイカは2,843匹ですが、うち4%が死滅しました。2,800匹のうち、市内に実際流通できたのが605匹ということで、22%、つまり8割ぐらいは、市外へ流れているという状況です。

実証事業ではサイズを指定しまして、中ぐらいの大きさのものを実証事業で、それ以外の小さいものや大きいものは実証外ということで、同じく流通しています。提供の方法の内訳でございますが、仲買さんに、直接お宿あるいは飲食店に配達して頂いたものが267匹、道の駅てんきてんき丹後の中間施設にお宿さんが直接仕入れにお越しいただいたものが83匹、店内のレストランで提供したものが86匹でした。50%の169匹が死滅しました。中間施設で本当にイカが活かしておけるのかという実証をやった結果、我々も初めてのことでありましたので、色んな情報をもとにやりましたが、半分が死滅したということでございます。その結果、生かしておくのにどういう資材が必要か、あるいはひとつの水槽に入れるイカの数はどれくらいか、どんな手間や工夫が必要かといったあたりの実証データが取れたということです。

経済効果ですが、これはあくまでも推定ですが、単品サイズで販売したものが約5,500円ということでしたので、純粹に飲食店と道の駅で売れた数をかけますと67万円。お宿の方で行きますと、3万円から4万円ぐらいの宿泊セットプランで取り組まれたと伺っていますので、35,000円かけるその数、1,099万円ということで、直接的な売り上げとしては、ざっと1,160万円程になるであろうということです。

当然、この宿泊に来られたお客様のその他の消費ですとか、イカを目的にこの時期に京丹後に来たという方の消費もあろうかと思っておりますので、ここにはない数字も期待ができると考えています。域内が2割で、8割がよそに流れているということでもありますので、仮に全部が市内でできれば、5000万円程度の直接的な売上が期待できる言うことで考えています。

それぞれの関係者の評価ですが、漁師さんは以前から、生きたままイカを水揚げできる仕組みを船に積んでおられますが、魚価の向上に期待していただいております。漁協さんも、漁業者の所得向上につながるということで支援していきたいと伺っております。仲買さんですが、今回、ここが一番難しいという課題が確認できました。配送コスト、配達途中で死んでしまうというリスク、その辺を踏まえた採算性が難しいというご意見を伺っています。

お宿さん、あるいは飲食店の方では活イカと岩牡蠣を組み合わせ冬のカニシーズン並みの価格設定できる、あるいはこの時期の新たな誘客材料になる、こういったものを食べに来られるお客様はリピーターになるというようなことで喜んでいただきました。

肝心の消費者ですが、道の駅で食べられた方にアンケートを取っていますが、9割以上の皆さんが満足され、ぜひ、今後も実施してほしいということでした。

実証成果を4つ程あげていますが、これらをまとめますと、広い京丹後市では、複数の中間保管施設が必要であるということ、これが確保できれば直接お宿さんにも取りに行っていたきやすくなりますので、次年度以降は、その方向で検討したいと考えています。

続きまして、チャレンジ補助金です。アフターコロナに向け、域内連携を強め、共同で商品開発やコンテンツ開発をしよう、あるいは経営の効率化を図ろうという取り組みを支援する補助金です。9件の実績があり、補助総額は570万円、69社の連携ができました。その下に連携事業の内容を記載していますが、誘客イベント、音楽制作、新商品の開発のほか、宿泊客に海岸清掃を担っていただく「TSUNAGUプロジェクト」というプロジェクトも立ち上げられました。

最後に、「山と海をつなぐ観光」、丹後・弥栄グリーンベルト事業です。真ん中に地図がありますが、弥栄町から丹後町にかけて丹後半島縦貫林道を使いまして、このぐるり一周をグリーンベルトと名付けまして、二季型観光から脱却するための取り組み始めたということでもあります。観光公社が保有していますヘルスツーリズムの認証プログラムの舞台が中浜の

漁村ですので、そこから30分圏内で体験等できる新たなコンテンツを作りました。自然遊びだったり、そこで暮らす方々の知恵や食材調達といった地元の方しか知らない資源を、地元名人の案内を受けながらつなぎ合わせていくというものです。まだまだ動き出したところですが、商品化できれば周遊性の高い、しかも滞在につながる商品になると考えています。観光庁の事業を活用し、記載してありますような関係者が連携して行いました。

観光振興課からは以上です。

#### <木村専務理事>

観光公社の事務局をしております木村と木本と申します。

資料の6-1と6-2をご覧くださいながら、コロナ禍における京丹後市の観光の状況と直近の状況と来年度に向けた当社の取り組みを説明させていただきます。

今年度取り組んできたことは、事前配布しました資料に詳しく書いてあります。直近はどんな状況かを取り上げてご説明し、情報共有をさせていただいたうえで、あえてこちらの方で分析を行ってはいませんが、データをもとに、いろんなご意見を頂戴できればと思います。

まずは現状ですが、お手元の資料1ページは、海の京都京丹後エリアの宿泊客数・四半期調査です。指定の主要8施設でデータを取っていますが、最近の状況は、2段目のところに4月から12月までの比較だけを赤にしていますが、4年前から比べて、コロナ禍の影響をかなり落ち込んでいます。左側が日本人の宿泊です。右側が外国人です。一番下のところが月別の集計です。

昨年、一昨年、青の2018年度と2019年度ですが、例年はこれぐらいでしたが、平成30、31年度は減っており、一番下の月別ですが、去年と比較すると、右側の外国人で今年度増えているのはオリパラの関係でスペインとポルトガルのチームを受け入れたというものです。

次に海の京都DMOから共有させてもらっていますデータで、数値は記載していませんので傾向だけを見ていただければと思います。黒い折れ線グラフが令和元年度ですが、例年はだいたいこのような線を描いていくという感じです。青が令和2年度です。赤が令和3年度ですが、毎年、夏と冬は当然上がって、前年度はコロナ禍ではありましたが、海水浴場を開けていた関係で8月は上がり、また秋頃は、秋旅キャンペーンとGOTOの効果により、例年以上に多かったということです。ただ年末からGOTOが停止されたので下がっています。

四角のところは、今年度の状況です。夏に一旦回復をしかけましたが、9月30日までの緊急事態宣言が出され落ちてしまいました。回復させようといろんなキャンペーンを見込んでいましたが、実際には赤の実線のような形になっています。先ほどのグラフと比べましても、若干の誤差があります。データによって、傾向的にはバラつきが出ますが、正確な全部のデータというのがなかなかありませんので、いろいろなデータを見ながら分析をしているところです。

次にもう一つ、海の京都エリアの細かい数値は出していませんが、傾向的に見てもらえたらと思います。2ページにあります。令和元年度の冬ぐらいからコロナが入ってきましたが、それと右側のページ、4ページのコロナ禍の今年の天橋立・宮津・舞鶴が青ですね。オレンジの丹後・久美浜が京丹後ですが、それとグリーンの福知山というところですが、30年、令和元年度はだいたい同じような傾向で、特に注目していただきたいのですが、夏は大体同じぐらい、冬の11月・12月でも京丹後の方が若干多い感じです。コロナに入って7月・8月、特に8月は、海水浴場との関係もあるので上がっています。11月・12月ですが、11月に

キャンペーンの関係もあって、いつも11月は低いですが、11月も増えています。今年度4ページの右下ですが、コロナ1年目になると多かったんですが、これも海水浴場、夏の関係もあり10月も良かったんですが、11月・12月はコロナやカニの高騰などあり、また年末の大雪も重なり減少しています。一方、綾部・福知山等は影響を受けていません、逆に去年は増えている感じです。福知山についてはビジネス客が多いということだと思っています。

観光公社の取り組みは、発足してから、今2年と10ヶ月ぐらいですが、5ページ、6ページ色々な戦略をしています。今まではどうしてもペーパー、紙での広告が多かったんですが、今はデジタルプロモーションもありまして、ページ訪問者数が増えています。これはページの左側ですね。また、いわゆるページビュー数、PV数ですが、ページの閲覧数では今21年度、今年度で1月末現在でも200万プレビューで、どんどん増えてきています。またセッション数も同じように増えていまして、最近は、いろんな広告をデジタルで打ってまして、こういう形でホームページに入ってきていただいているかと思っています。この辺を中心にPRをおこなっています。

次に対策ですが、観光公社の会員は正会員が170人です。その中で、お宿さんは市内全域では180軒ありますが、公社の会員は130軒あり、その会員に電話で1月中旬にアンケートや聞き取り調査をさせてもらいました。やはりお正月明けからのオミクロン株の影響で、キャンセルが非常に多いのと雪の影響、特に最近テレビの天気予報なんかも「大雪」「大雪」と非常に強調されますので、そのためにキャンセルが多いと悩んでおられました。年末は、高速道路が3日間ぐらい停止してしまい、そういうところから、「冬はもう京丹後に行くのはやめよう」という雰囲気になるのが一番怖いと思っています。色々な支援についても、会員の皆様に支援金のお知らせをずっとさせてもらっています。蔓延防止が3月まで伸びてしまった関係で、いろんなキャンペーンを打つのを今は様子を見ている状況です。例えば、特に京丹後には車で来られる方が多いですし、最近ガソリンが非常に高騰していますので、こういったガソリン券をプレゼントするようなキャンペーンを今やろうとしているんですが大々的にはできない状況です。あとは公社ではありませんが、市で頑張る観光業者応援キャンペーンということで今ふるさと納税を活用したキャンペーンをされています。

次に、先ほどもSNS、デジタルのプロモーションに力入れているとお話しましたが、資料では11ページ、12ページです。例えば、春に向けて、SNSや京丹後ナビに入ってきてもらうようなランディングページを作っています。こんなイメージで、今はドライブで、春のピンク、桜をイメージした感じで、ランディングページを作っている最中ですが、会議を何回も開いて、色々なターゲット絞りを地道にやっています。こういうことをやりながら、3月に入ったら「京都リビング新聞」、京都市内の方に約50万部配布されているフリーペーパーですが、3月19、21、26日の予定で、この去年のもののような広告をして、何とかPRに努めて行こうと思っています。

他には、ANAさんから観光公社に来てもらっていますが、1ヶ月間の羽田空港にありますデジタルサイネージでPRをするということで準備を進めています

今の状況、課題と今どんなことやっているかという説明をさせていただきました。

それでは次に事務局長から次年度に向けた観光公社の取り組みの予定ということで、市の新聞発表された資料と同じような内容の資料で説明させていただきます。

<事務局長>

観光公社の事務局長をしております木本と申します。よろしくお願ひいたします。

今、専務理事からありましたように、資料は6-2になります。次年度に向けた観光公社の取り組み予定で、当初予算の発表された予算の資料を基に作成したものです。従いまして、当初予算の成立が前提となるということであります。「高度なPR」と書いてある部分、背景・目的につきましても時間の関係上、省略させていただきます。

事業内容ですが、①は、国内外観光プロモーション・マーケティング事業です。公社では専門家や専門事業者の知見を積極的に取り入れWebマーケティング戦略を事業活動の柱に据え、インターネットやSNSを活用したデジタルプロモーション活動を重点的に実施しています。一つ目は国内外のホームページのメンテナンス改修です。マーケティング会議やウェブ戦略会議で検討したマーケティング戦略に基づくウェブサイトの改善や新規ページの制作を予定しています。

②の専門家を含む戦略会議・マーケティング会議は、年に24回、③の広告宣伝事業は、広告用のLP制作として、ランディングページ、検索結果やSNSなどから流入したユーザーに行動を起こさせることに特化したサイト、独立したページのことですが、誘客プロモーションとして四季ごとに製作を予定しています。WebやSNS広告の配信については、誘客キャンペーンとか宿泊クーポン券の販促、ECサイトの集客等にあてていきたいと思っています。

先ほどもありました京都リビングですが、引き続き3回を想定しています。

関西の主要駅の7駅のデジタルサイネージ広告は3回、電車の車内広告につきましても2回予定をしています。JR西日本の京阪神エリアの電車内及び主要駅構内において反復・週及性とか、視認性が高い、電車広告・広告、デジタルサイネージ広告を掲出するものです。

④は観光コンテンツキャンペーン企画開発で、ヘルスツーリズム、グリーンベルトのコンテンツ開発とJTBパンフレット製作で、引き続き認証取得した「百寿レシピ体感プログラム」を核に、スイス村、野間エリアでの体験を加えたツアーの商品化に取り組みます。それに伴って里山文化案内人の養成事業も取り組んでいきます。

ANAとの連携による二季型脱却キャンペーンでは、ジオウォーク、首都圏向けのDP（ダイナミックパッケージ）クーポンキャンペーンを予定しています。

「新ジオ縦断トレイルツアー」は、現在、日帰りバスのトレッキングツアーに取り組んでいますが、非常に人気であり、さらに大手旅行会社と提携して京阪神を対象に継続して取り組んでいきたいと考えています

ロケ地巡りツアー企画の販売・運営については、撮影地を通じて京丹後の魅力を発信するということを目的に、京丹後ロケ地巡りツアーを実施していきたいというものです。

観光PR商品企画デザイン他は、今年度制作した公社のオリジナル観光商品「お茶レター」です。現物は用意していませんが、写真のとおりカラフルな10種類のお茶パック、ティーバックが2個この中に入っています。京丹後産のお茶を使って観光PRを行うもので、第二弾を考えています。

⑤の教育旅行、木津川市の友好都市推進につきましても、教育旅行の誘致と「友好都市京丹後に行こうフレンドシップキャンペーン」として、木津川市民を対象にした宿泊優待キャンペーンを検討しています。

2番、インナープロモーション事業は、会員向けニュースレターの発行、3番、海の京都認定観光案内所事業はチャットボットの保守運営管理委託、4番、総務受託業務事業はフィルムブランドプロモーション事業です。今年度、京丹後ナビの中で、映画・ドラマ・CMのロケ地紹介ページの開設をしており、ページの更新を予定しています。あとはパンフレットの更



新と、5番については、支部の活動支援で、網野町支部、久美浜町支部が行なっているレンタルサイクル事業とか、イラストマップの更新等を考えています。

その他、ここには書いてありませんが、先ほどあった追加のプロモーションや、ふるさと納税返礼品の宿泊クーポン事業にも引き続き取り組んでいきたいと考えています。

### (3) ウィズコロナ、アフターコロナを見据えたディスカッション

<会長>

市と公社から直近の取り組み、令和4年度の予定についてご説明をいただきました。内容について、ご質問・ご意見がありましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

ご存知の内容でもあろうかと思いますが、今取り組んでいる内容の報告でございますが特にご意見がありましたらお願いします。

では市の現状、取り組みというものが理解していただいたということで、次に、最後の議事、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えたディスカッションということで委員の皆様方には是非ご意見を賜りたいと思います。

非常にテーマが多岐に渡りますので、私の方から今までの流れも含めまして、テーマを提示させていただきたいと思います。

一つは、コロナ禍において、非常に産業的に発展した企業がたくさんあるということで、このデジタル化に前向きに進んでいる所は非常に収益が上がっているということです。その点でどう考えていくのか、特に国の方ではマース（MaaS）という言い方になっていますが、途切れのない移動を、スムーズに情報提供しながら結びつけていく、活動・体験を結びつけていくような動きをとっていますので、京丹後市においてもこのような動きをデジタル化の軸にしていく必要があると思います。

一般論ではありますが、観光業で言うと、量から質への転換というものが求められていて、団体とかグループよりも心の満足度をいかに上げるかということで、宿のリニューアルを、お客さんが少ない時期に取り組みされたところもたくさんあり、新しい部屋、新館とか新しいところをアピールされているというところも多々あるかと思います。

それから事前の資料にもありましたけれども、同時に人材確保の問題が異常にコロナにおいて問題になってきておりまして、人材確保をどうするのかということもソフト面で重要になってくると思います。

そして明るい話題としては、次の万博が2025年に行われますので、国内外の人たちが大阪にやって来ますので、次期の計画には、是非このウェルカムキャンペーンのような、京丹後にどう誘客をするのか、非常に重要なテーマになると思います。

万博のテーマが「いのち輝く未来をデザインする」ですので、京丹後市が持っているヘルスツーリズムですとか、色々なものがぴったりと合ってくると思います。実は広域連合、関西全体としてのPR館を作ることは決まっています、このPR館の主な目的は、周辺部に国内外の人に行ってもらおうというのが、主要な館の使命ですので、そこでの展開と連携していくということが重要になってくるのではないかと思います。

あとは文化の問題です。文化庁が京都に本格移転しますので、文化を観光と結びつけていくかということも少し課題になってくるのではないかと思います。あくまで私の私見でございます。これに関わりなく是非皆さんのフリーディスカッションをいただければと思います。少し前置きが長くなりましたけれども、どなたただからでも結構でございますので、是非お願いしたいと思います。

<委員>

本日のお話をお聞きして私の方から提案といえますか、まずは全体の傾向というところで、これはこちらの宿泊旅行などを見ている中での傾向ですが、宿泊施設では、温泉がありますので、温泉に入りながらゆっくりのんびりという傾向があります。宿泊につきましては、かなり良くなってきています。

旅行における宿泊施設の重要性はこれまで以上に高まっている状況になっているという風に思います。ただ傾向としては、宿泊施設でゆっくり過ごして、そのまま帰ってしまうという傾向が強くなっていました。ですので、いかに安全・安心を確保しながら宿泊施設のあと、帰るまでの間、楽しめるものがしっかりあるということをいかに訴求していくかが、今後非常に重要になってくると改めて感じました。

<会長>

ありがとうございました。他意見、今のことに絡んでいても結構ですが、お願いします。できましたら観光業の実務の方々からは是非ご意見いただければと思います。

<委員>

この現実が、2年3年続いているコロナ禍でお客さんが激減し、この資料のとおりになっています。今これに対して夕日ヶ浦観光協会にしても色々な会議をさせてもらい、いかに今までの夕日ヶ浦から脱却するかとか、これからの新しい夕日ヶ浦を作っていくのか、先ほども言われていましたが、現実、夕日ヶ浦も観光の拠点にはなっておらず、一つの目的のため、カニを食べに来るだけの場所となっていますので、それをいかに脱却するか、例えば夕日ヶ浦を中心に他の地域に行き、また夕方帰ってくれるような長期滞在型をどういう風に目指して行ったらいいのか。会議の中では、そういった議論させていただいています。

<委員>

お宿も小さいですし、基本的には各々のお宿の個性を重要視しながら、そしてお宿同士が仲良くいろんな意見交流も含めて助け合うってようなコンセプトを持ちながら、多くのお客さんを取り込むのはありがたいですが、今あるお客様のリピーターとか、それから、今後はファン、自分の宿や京丹後のファンを作るような方法を検討しています。特におかみさんの会は、事務局を観光振興課に置いていただいていますので、常に行政と公社との連携も図りながら、自分たちが一生懸命やることによって地域が元気になるような、広報部隊のような女性ばかりですので、広報活動も含めて日々精進しております。本当にコロナで苦しんでおりますので、それぞれのエリアが特徴を持ったおもてなしも含めて、エリアごとに個性も違いますので、新しいプランとか新商品を開発しようと、今年一年は観光公社さんに売ってもらえるような商品づくりを、自分たちで努力しながら頑張っております。

そのような状況でとにかくこのウィズコロナの時に、また新しい商品等を提案していけたらと思っています。

<委員>

ジオパークのガイドをやっています、去年リモートで全国大会に参加し、琴引浜での活動報告をしました。その時に、太平洋側のガイドさんは、津波とかそういう対策を入れていると聞きました。先ほどのご意見にもあった安心安全の中に、観光もやはり防災面が少し抜

けているのではないかと思いました。資料を見せてもらって、そういう切り口から、お客様が安心安全で来ていただけるようなプランニングを観光業界全体としても入れて行かなくてはいけないのではないかと考えています。あと教育旅行として、琴引浜は観光公社をはじめ、京丹後市にお世話になっており、コロナで4度目の正直になりましたが、去年10月、愛知県から下山中学校に琴引浜に来ていただきました。

その時に、先方は公立の中学校でしたが、対応される先生方がズームを保護者、現場、それからこちらの網野と3局中継をやっているというのを知り、中学校の先生方が、今本当にこのデジタル化を駆使している、そんな姿を見せていただきました。京丹後市の学校現場ってこういうふうな対応ができるのかなというふうに思いましたので、いろんな面で人々が交流することによって影響を受けます。出来れば、本当に近くの中学校とか地域の人たちとも一緒になって交流が成果となって現れてきたらいいと思っています。

#### <委員>

先ほど言われましたように、旅館関係はコロナによる影響が大きく、特に今年はカニの高騰もあり苦労していますが、コロナになる前より、私は小天橋にいますが、魚釣りとか家族で遊ぶお客さんが、久美浜湾周辺にたくさん来られていて、海水浴場が閉鎖していることもありましたが、そういう面でもやっぱり、久美浜は京阪神から3時間で来れますし、観光の面でも、もっともっと発展成功する要素がたくさんあると思っています。コロナが収まればまた国からの支援やGOTOトラベルなどにより、今まで以上に京丹後に足を運んでくださるような対策というのを取ってほしいと思います。また各個人の宿でも来られた方にまた来ていただくような努力はされていると思いますので、そういうことでまた京丹後市が盛り上がっていけばいいと思います。それとGOTOトラベルなどの補助がありますが、手続きがややこしくて年寄りの方にはできないところもあるのではないかと思います。私のところでも、若い子達にネットを使って手続きをしています、もう少し年寄りにも分かりやすいような体制にしていきたいと思っています。

#### <委員>

今ずっと資料を見せていただき、説明を聞いていまして、現場の方は頑張っておられると感じました。公社さんも、色々な手を打って次々アイデアを駆使して、「ここも行ってみたい、このグリーンベルトもいい」というように感じています、いかにアクセスしてもらおうかという課題、それから「行きたい」と思うまで、それからどうやったら腰をあげるかというあたりで、行った人がSNSでいいねとか、インスタでも「すごくよかった」と言ってもらえると、私も行ってみようかなとなるので、そのあたりをいかに発信するかだと思います。

また私が思うには地元の人もいいけど、案外知っていないことがあります。コロナ禍の間に、お客さんが少ない時に、地元の人にも特典を与え、実際泊まってもらい「いいところだから来てね」ということを発信してもらえるといいと思います。

実は、去年の夏、夕日ヶ浦に、吹田と大阪市内の友達を二人招待しました。夕日がとてもきれいな時で、食事しながら、まともにその沈む夕日を見て、最高、これ世界一だね、とても良い日だったねとご馳走を食べながら、次の日はゴルフをして大満足で帰られ、ものすごく感動されていました。その感動を、インスタグラムなどに上げていただくなどできたらいいと思います。

#### <委員>

お話がありましたように、皆さんが頑張っているというのを、まず感じました。

私は、琴引浜のところで漁師体験をやっています。他にもいろいろと漁師体験というのがありますが、お客さんに、サザエやアワビは去年からできなくなってきましたが、素潜り体験をしていただくということをやっています。なぜそういうことになったかと言うと、どんどん漁師が減ってきています。今まで、海の上から覗きと言うか、見て取るということでしたが、そういう方々がどんどん減ってきて、地域の漁師さんも、実は、昭和のときは20人くらいいましたが、今は、6名、この前仲間が増えて7名になりました。そういう状況で、会員の中で覗きをする人がいなくなってしまう。だから発想の転換として、マイナスからプラスにしていこうという転換で「覗き」をして、そのまま喜んで帰ってもらおうということをやっています。漁師さんが減る中でも発想の変換をし、先ほど活イカの話がありましたが、どの業種でもコロナとは関係なしにマイナスの部分がかかなりあるので、そこをなんとかプラスに結びつけようということは、よそにないものを作り出すことにもつながると思います。どんな業種も、将来に向けプラスに転換していくという発想は必要じゃないかなという風に考えました。また素潜り体験も、7月1日から8月のお盆過ぎまでという50日ほどですが、やはり毎年8月になると海は荒れてきて出来なくなります。今年の取り組みとしては、できれば6月の中頃から実施したいと考えています。SNS等でご協力をお願いしたいと思っています。

#### <委員>

我々のところは公共交通の会社、それから観光というふうに分けて営業展開をさせて頂いていますが、先ほど、木村専務理事から色々のご説明があり、たくさんの事業計画を推進しているということで、羨ましいと思います。しっかり予算をつけて頂いているということだと思いますが、本当にそんな思いをしています。

私の今の状況、会社の状況ですが、全体としては多分一緒だと思います。観光分野においても半分以下の集客です。例えば 団体が全くというか、2割ぐらいしか動いていないと思います。そういう中で、個人さんをしっかり拾ってはいますが、現状としては、コロナ前の半分以下になっています。実は、去年いろいろと状況が変わって、我々の高速バスも大阪と京都から出しておりますが、そういう中で見ると、浮き沈みがあり、12月ぐらいまではいい感じでかなり入ってきていて、雪が降る前は非常にいい流れで定員も徐々に増え、このまま行けば増便計画もできると会社としても考えていましたが、そこに、また辿り着けずになんてなっています。これからを推測すると3月6日の蔓延が終わり徐々にまた回復傾向になってきて、7割ぐらいまでは復活が早いかなと想定はしております。

人材不足については多分同じだと思いますが、運転手不足が最近エスカレートし非常に厳しくなっています。一時復活というかいろんな手立てをしてクリアは出来ていましたが、高齢化の中で、京都の方からも募集していましたが、冬は雪が降るので、雪が怖い、運転するのも怖いと、命を預かる事業として危惧している方がいらっしゃる。こちら辺はやはり地元でしっかり募集をかけていかないと公共交通、路線を含めての維持が厳しくなってくるという状況でございます。

以前も申し上げたかもしれませんが、京丹後市のマインの中に、会社として案内所を作らせて頂きました。一階のチケットセンターの横にスペースがありましたので、チケットを買っていただける場所も設けました。是非一緒に色々な意味で利用していただければと思っています。

#### <委員>

冒頭に申しました通り、私どものセンターは、この地域に訪れていただいている観光客の皆さんに、魅力ある商品を提供する、またその商品づくりを支援させて頂いています。センターを訪れる観光客もコロナの影響を受け減っていますので、ファンの方に魅力ある商品を提供できるように努めています。

コロナの中で、人々の意識の変化というお話もありましたが、商品を買ってもらうためには、商品、味もそうですけども安心安全、これが今重要な事項の一つと思っています。特に食品表示です。販売する際に信頼していただき、またリピートにつながるということで力を入れています。やはり人々の中で安心安全、先ほど防災もありましたけども、安心安全と言うところを意識しながら取り組んでいきたいと思っています。

様々な事業をご紹介いただきましたが、多種多彩な観光事業とも協力連携を強化しながら、SDGsも意識しながら取り組んでいけたらと思っています。

#### <委員>

今、コロナ禍で少人数の旅を支えていかないといけないと思っています。昔のような密になるような旅ではなくて、ゆったりと少人数でも楽しんでいただけるような宿泊施設でありたい。そういう状況がしばらく続くのではないかと感じています。そういう中で少しでも付加価値をつけていくというか、提案をしていく必要性を感じています。

#### <委員>

お話を聞かせていただき、色んなプランを準備され頑張っておられるという印象を受けております。織物業界には直接的には関係はありませんが、まだまだ丹後の織物は認知度が低いと思っていて、丹後にたくさん来訪されることによって、丹後ちりめんの認知度も上がってくると思っています。また具体的なことはありませんが、コロナ禍で工場見学も休止しており、コロナがある程度収束したら、工場見学も再開し産業観光的なところでPRをしていきたいと思っています。

丹後に来れば産業が体験できるということを話題にしていきたいと思えますし、丹後に来たら高品質のものが買えるという地域にしていきたい。そういった取り組みもはじめていますので、また観光事業者の皆さんとともに発展していけたらと思っています。

#### <委員>

当社としてはコロナでかなり利用客が減っているという状況です。昨年度以上に今年度は厳しい状況です。あと残りひと月程になりましたが、今力を入れているのは、4月以降コロナも多少収束するという期待も込めて、特急利用の促進と丹後地域への誘客をはかるということに力を入れています。実は3月12日のダイヤ改正で観光列車をほぼ宮津線の方に集結させています。なるべく宮津へは特急を使うようにしてもらっています。

今度、あおまつ号も西舞鶴と豊岡、網野間を、3月12日から走らす予定ですので、京丹後という意味でいくと、あおまつを普通列車として、車体は「あおまつ」という形になりますが、そういうものを利用した誘客というのも一つです。それと同時に、特急というところでは、開業当初にあったようなフリー切符というような企画乗車券に力を入れています。その新商品を作っていくというのが一つ。また昨年12月には読売旅行と「ガストロノミーウォ

ーキング」を網野から丹後王国まで、食べ歩きというか、美食家ツアー的なものを企画して、特急や観光バスを使って京丹後まで来ていただきました。これは実証実験ではなく本番ということで、読売旅行と詰めており、実施していきます。あとグループでやっている、今はまだここでは詳しく言えませんが、アニメがらみの新しいコンテンツを考えていまして、そういうものでの誘客も考えています。

あと明後日ありますが、私は京丹後市の文化財活用委員にも委嘱されていますので、文化財を活用するような旅行商品、交通がらみのものも力を入れたいと思っていますし、先ほどマースという話がちらっと出ましたが、今京丹後市で、モビ (mobi) をやっていただいています。与謝野町でも実証実験をしています。今度KDDIとこのモビー事業を外だしして、コミュニティーモビという会社を作り、4月1日から運営することになりました。併せて、この丹後地域全体に、モビー、マースを横展開し、鉄道というよりグループ会社で移動の総量だったり、二次交通だったり、あと誘客という視点で貢献していきたいと思っています。

#### <オブザーバー>

平素は京都府政の推進にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。その中で蔓延防止ということで、皆様方関係事業者の方々には、様々な制約をお願いしています。

京都府では、参考までに飲食店時短要請や営業自粛等への協力金に関して、昨日から2月20日分まで、申請を開始しています。お忘れなきよう申請していただけたらと思います。

また3月6日まで、蔓延防止による自粛要請をお願いしていますが、一定終息した暁には、現在一旦ストップしています「京都魅力再発見プロジェクト」再開していきたいと思っていますので、積極的に活用いただけたらと思います。

あと一点、先ほど人材不足のお話がありましたが、確かに冬に宿泊事業者の皆さんも人材不足に悩んでいらっしゃるということで、京都府の方では「府内学生就職促進事業」中長期に学生さんのインターンシップを受け入れていただく事業者さんに対して一定数の人件費等を補助する予算も組んでいますので、ぜひ活用していただけたらと思います。

#### <オブザーバー>

DMOではコロナ対策と観光プロモーションに取り組ませていただいております。その中で先ほどお話にもありましたように、デジタルマーケティングについては、我々としても、力を入れていかなくてはいけないと考えています。このエリアに来ていただける可能性がある方に、いかに効率的に必要な情報を伝えるかということが大切かと思っていまして、そういった取り組みをしていくためには、各事業者さんの情報も含めてお聞きする中で、セグメント分析をやっけていかなくてはいけないと考えています。

またインバウンドに関しては、現在止まっている状況ではありますが、やはり平日対応、閑散期対応を考えますと非常に重要な要素かと思っています。今のうちにできる準備をさせていただくということで、先般から事業者を対象にしたセミナーも開催させていただいていますが、当面、東アジア中心に戻ってくるかと思われていますが、その先の欧米豪の方々も含めお迎えできるような環境づくりをやって行きたいと思っています。引き続き、皆様のご協力をいただきながら、進めていきたいと思っています。

#### <会長>

ご参加の方々のご意見いただきましたが、追加はございませんでしょうか。

少し皆様方のご意見を整理しますと、一つは安心安全が非常に重要だというのが共通項として出てきたのではないかと思います。また宿が非常に重要でありその宿の個性も重要であるという、そういったところがベースになってきているのではないかと。

三つ目は、やはりデジタル化の話を少し進めていかなければいけないだろうと、その中でマーケティングという話がありました。リピーター、ファンづくり、こういった方々の自主的な情報発信でYouTubeを展開していくとかのご意見も出ていたかと思います。そういう中でやはり人材も、今デジタル化の中でどう確保していくかいうことで現場体験、漁師体験もご意見として出ていました。あと、アニメ、グルメ、文化財活用、それから最後にコロナが終息した時の状況について視野を持っておくというようなことであったかと思います。

事務局で、皆様方のご意見の整理いただき、コロナ禍も踏まえての計画4年目の年次報告書としてまとめていただきますよう、よろしく願いいたします。よろしいでしょうか。

以上で予定の議事は終わりましたが、最後に全体を通して皆さんからご意見ありますでしょうか。

この会議だけではなく、また事務局にご意見をいただければと思います。では進行を事務局にお返しします。

### 3 報告事項

#### 第4次京丹後市観光振興計画策定の準備について

<高橋商工観光部長>

スムーズな進行をどうもありがとうございます。また委員の皆様、大変重要なご意見等頂きましてありがとうございます。本日の会議をもとに、事務局で計画4年目の年次報告書について整理をさせていただき、委員の皆様にお渡しさせていただきたいと思います。

それでは3番目の報告事項であります、第4次観光振興計画策定の準備ということで、事務局から少しご説明、ご報告させていただきます。

<大江観光振興課長>

現在の第3次計画が、令和4年度までということですので、令和4年度中に第4次計画を策定したいと考えています。基本的な考え方としては、市の総合計画に沿って観光振興のマスタープランとして作っていくということですし、計画期間は令和5年度9年度までの5年間ということになります。策定に当りまして、本推進会議の皆様にお力添えを頂き、ご意見を伺いながら、あるいは市民の皆さんにもパブリックコメント等でご意見を伺いながら策定します。

スケジュール感ですが、あくまでも令和4年の予算が成立し次第ということではあります。予算成立後、新年度早々に動き出していきたいと考えています。策定は令和4年度末、つまり1年後の3月ということですが、議決を受けないといけませんので、逆算しますと12月議会に上程することになります。さらに逆算しますと、現在皆様にお世話になってますこの審議会の2年に一度の改選が8月にありますので、9月からの新たな委員の皆様、12月議会に出す計画案をまとめて頂くことになります。それまでにその計画案の原案、基本的な考え方、方針、そういった辺りを、来年度早々の4月から半年間ぐらいかけて検討部会を立ち上げさせていただき、検討部会のみなさまと一緒に原案作りを進め、それを9月の新メンバーの皆様にお渡しをいただきたいと思いますと考えています。そのようなスケジュール感を持っていますので、皆様にも是非ご協力をお願いしたいと思います。

#### 4 その他

<高橋商工観光部長>

今、事務局の方から説明をさせていただきましたが、次年度は新しく計画の見直しということで策定に向けて準備をさせていただきます。その中にまた委員の皆さんの方から、検討部会を立ち上げて、委員さんもどなたかにお入りいただき検討を進めていくということで、部会の委員選任につきましては、会長にご一任いただくということでお願いをしたいと思います。よろしくご了承いただきますようお願いいたします。

その他の項目として、皆様方から何かございましたら、この機会に情報提供等いただければと思いますが、いかがでしょうか。オンライン参加の方も何か情報提供がございましたらこの機会にいかがでしょうか。

それではないようですので、これで本日の会議を閉会させていただきたいと思います。閉会にあたりまして坂上会長よりご挨拶を頂戴したいと思います。

#### 5 閉会

<会長>

長い時間ありがとうございました。本来は副会長が挨拶をということですが、本日はご欠席ということですので私の方から一言挨拶をしたいと思います。

貴重なご意見を頂きましてありがとうございます。引き続き京丹後市の観光振興にご協力いただきますようお願い申し上げます。少し補足的に2点だけ申し上げたいと思います。

国では観光の現場で女性の力を活発にするように検討しましょうというジェンダーの考え方を観光に入れるという会議が立ち上がっています。今、人材不足についても、若い女性が観光の現場で活躍いただけるような環境づくりというのが非常に重要ではないかということが一点です。

それからオーストラリアの国際観光について「2回（ワクチン）接種していたら誰でも来ていいよ」という風になってきております。他の会議でも日本はやや鎖国という言葉が叫ばれているようです。これは国だけでなく「都道府県をまたぐな」というぐらい日本はちょっときつい考え方を持っているようですが、徐々にこのコロナも軽くなっていくというのが自然の法則のようです。社会的な考え方として、コロナ開けの考え方もぼちぼち、出てくるのではないかなと思っています。益々京丹後市の魅力がこれからも上手く観光に繋がっていきますよう、よろしくお願いしたいと思います。

<高橋商工観光部長>

それでは閉会とさせていただきます。本日は大変お忙しい中、少し閉会時間が超過しましたけれども、ご出席いただきましてありがとうございました。オンライン参加の皆様もどうもありがとうございました。これで終了とさせていただきます。